

# 障害者支援施設で特定技能生を受け入れて

---

社会福祉法人黒松内つくし園

障害者支援施設しりべし学園施設長 遊 部 眞 澄

法人本部人事部門担当 村 上 眞 澄

# 法人の概要

昭和**31**年 故廣瀬清藏氏が私財を投じて「児童養護施設黒松内つくし園」を開設

昭和**32**年 法人認可 以降、認定こども園**1**ヶ所、

福祉型障害児入所施設**1**ヶ所、障害者支援施設**2**ヶ所、

養護老人ホーム**3**ヶ所、特別養護老人ホーム**3**ヶ所、

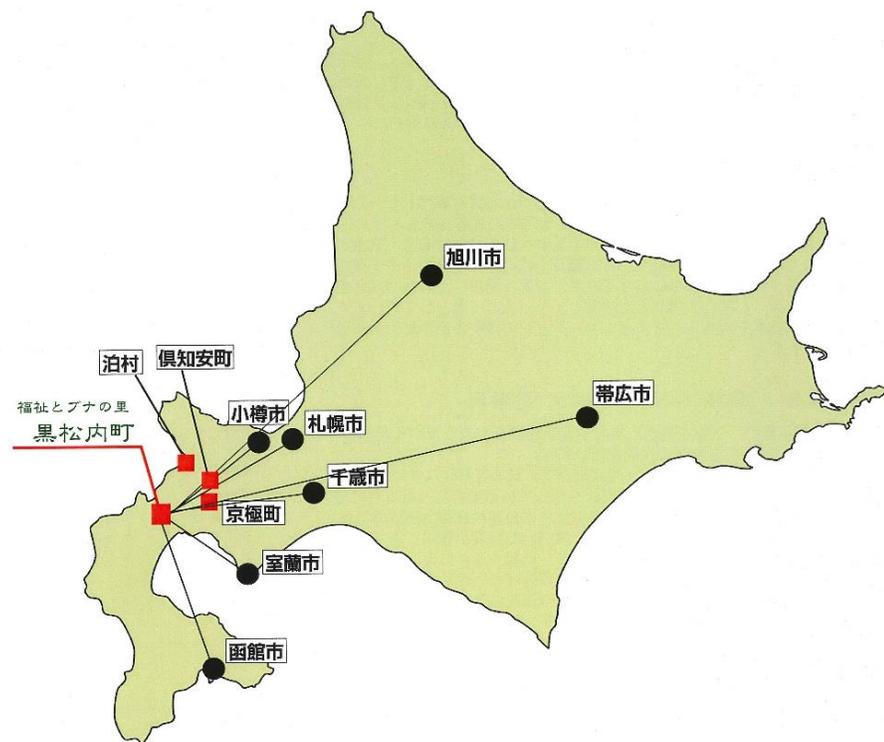
介護老人保健施設**1**ヶ所、

障害者就労支援施設、グループホーム（障がい・高齢者）、

在宅支援事業（児童デイ、老人デイ、通所リハ、居宅介護等）

等、**60**を超える事業を展開し、職員総数は**500**名を超える

法人施設・事業所所在地から道内主要都市までの道のり距離・所要時間  
(往路・季節や道路状況に応じて変化します)



# 外国人材の採用

採用年月	介護		特定技能		技能実習		その他（通訳等）	
2017.06	①	特養）ハイツ						
2018.04	①	特養）ハイツ						
	1	特養）むつみ荘						
2019.04	①	老健）湯の里			1	老健）湯の里		
					1	障）リハビリ		
					2	特養）ハイツ		
					2	特養）むつみ荘		
2020.02						▽1	老健）湯の里	
2020.10			2	特養）慶和園				
			2	老健）湯の里				
			1	GH）つくし				
2020.12			1	障）リハビリ				
			2	障）成人寮				
2021.02					1	ハイツ		
					2	老健）湯の里		
					3	養護）ホーム		
					2	特養）慶和園		
					1	特養）むつみ荘		
2021.04	1	老健）湯の里						
25	2		8		15		0	

# 事業所の概要

---

障害者支援施設しりべし学園成人寮

昭和**41**年開設の障害児入所施設しりべし学園に併設する形で昭和**52**年に開設

のちに就労継続支援**B**型事業所、グループホーム**5**ヶ所も設置している

定員**70**名に対し在籍**66**名、うち生活介護**60**名、就労**B**型**6**名で構成

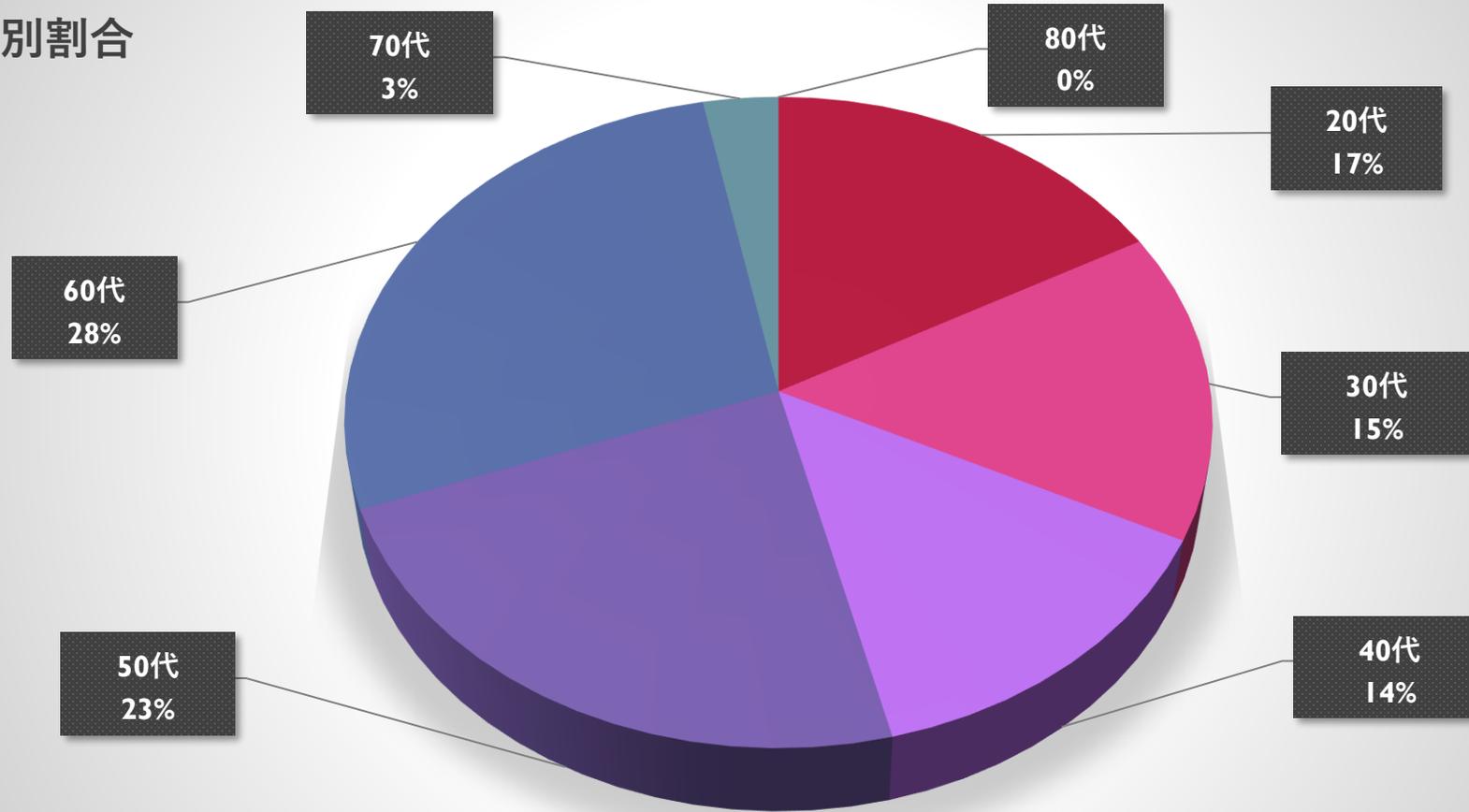
平均障害支援区分は**4.9**（区分**5**、**6**の割合**62%**）

建物は**2**階建　**1**階に女性利用者**26**名、**2**階に男性利用者**40**名

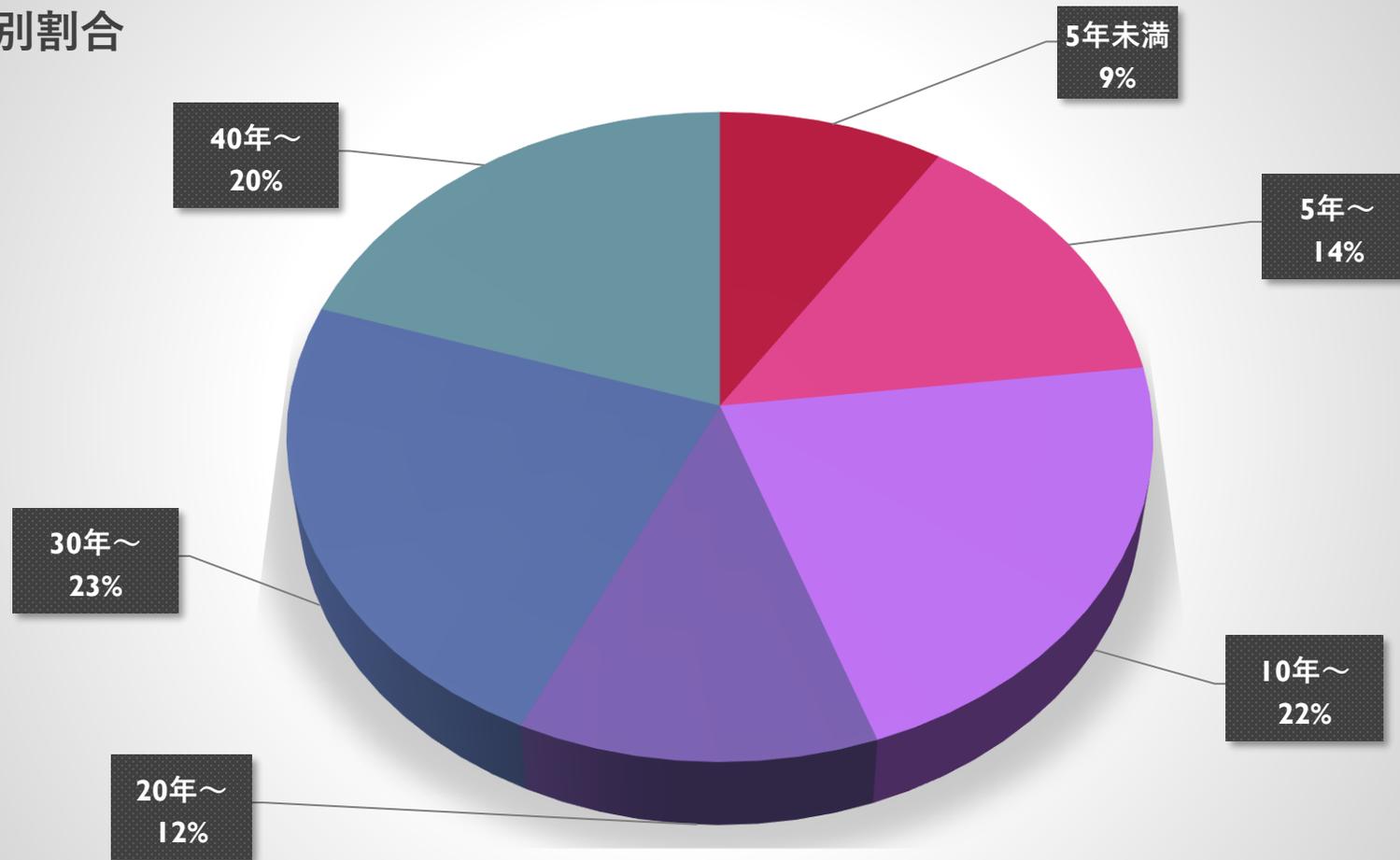
サービス管理責任者**2**名、生活支援員数**23**名（兼務含む）

# 利用者の概要

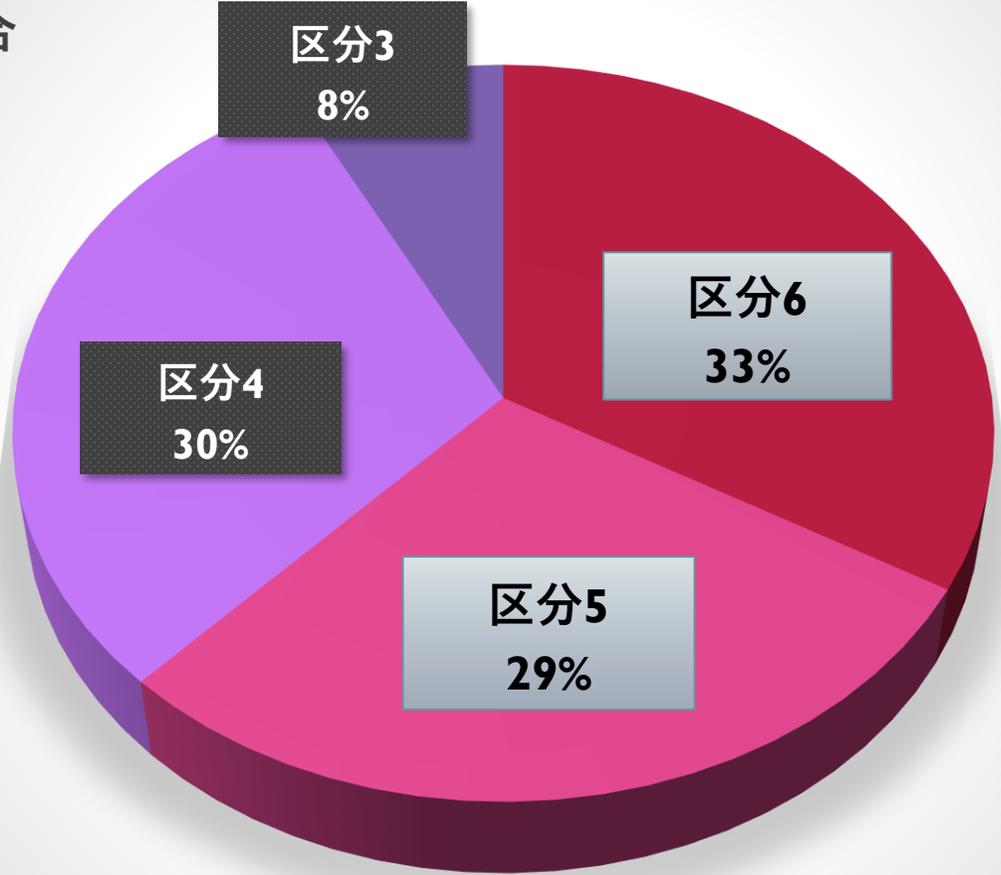
## 年齢別割合



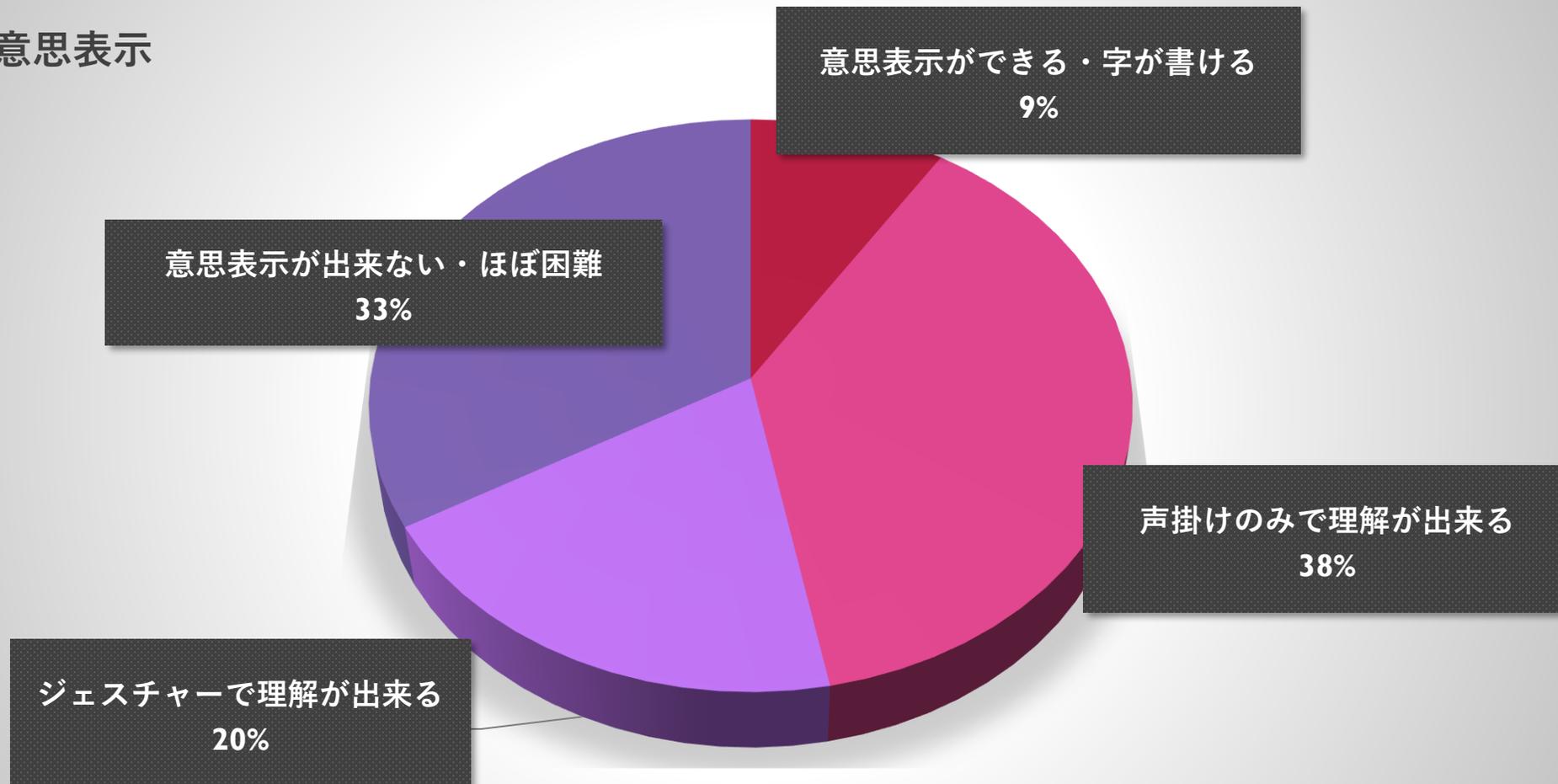
## 在籍年数別割合



障害支援区分割合



## 意思表示



# 特定技能職員と利用者の関り

## I. 知的障害の理解

---

自国では障がい者の概念が無いに等しい。

### ■施設側の取り組み

a.入職時に知的障害に関するガイダンスを実施

\* 指導者として苦勞した点

b.個々の利用者の特性を説明

\* 指導者として工夫した点

# 特定技能職員と利用者の関り

## 2. コミュニケーション

---

特定技能職員の日本語レベルはN4

話すことは比較的容易だが、聴き取りが難しい。

### ■施設側の取り組み

#### a. 定期的な日本語教育

\* 指導者として工夫した点

#### b. 読み書きと会話力の向上を目指す

\* 指導者として工夫した点

# 特定技能職員と利用者の関り

## 3. 利用者支援

---

支援時の声掛け

利用者の予期せぬ行動への対応

### ■施設側の取り組み

#### a.業務指導職員の配置

\* 指導者として工夫した点

#### b.変則業務への支援

\* 指導者として工夫した点



← 入職1週間

入職6ヶ月 →



# まとめ

---

法人で技能実習生（ベトナム）の採用を検討した際、当時、私が施設長をしていた身体障害者の入所施設でも受け入れを決めたが、面接の際に当施設を希望した実習生はいなかった。

現地の日本語学校教師に東南アジア圏での障害福祉事情を伺うと、そもそも障害者という概念は無いに等しいが、高齢者に対しては人生の功績をととても敬う慣習が強いという事が分かり、障がいの施設であっても、高齢者と同じく介護を行う施設だという事を根気よく説明していただき、なんとか1名を採用することができた経緯がある。

---

特定技能（カンボジア）に関しても同様な事象があるか不安ではあったが、今回、男性1名、女性1名を採用することができた。

今回受け入れた2名に関しては、比較的抵抗もなく業務に入れた印象が強く、毎日笑顔で真面目に頑張っているお二人には感謝申し上げたい。その裏には同僚である日本人のサポートがあることも決して忘れてはならない。

利用者の特性上、コミュニケーションの機会は介護施設よりも低いかもしれないが、その分、定期的な教育の中で会話力を中心に日本語の実力をつけ、**N3**、**N2**に進んでいけるよう支援していきたい。